

天祖神社（龍土神明宮）御由緒

天祖神社（龍土神明宮）（てんそじんじゃ・りゅうどうしんめいぐう）の御祭神は、

天照皇大神（あまてらすおおみかみ）、伊邪那岐命（いざなぎのみこと）、伊邪那美命（いざなみのみこと）で、今から、約六百年前、至徳元年（西暦1384年）にはじめて祀られました。

このお宮に、品川沖から毎夜竜が御灯明を献じたということで、この地を、竜灯山（りゅうどうやま）と呼ばれたと言われています。

この地一帯を竜灯（りゅうどう）からとって、竜土村と唱えるようになり神社の名前も龍土神明宮と称えられました。

現在の御社殿は昭和三十二年に神明造（しんめいづくり）として再建されたもので、その木肌の美しさは日本の伝統的建築物の象徴ともいえましよう。

満福稲荷神社 福祿寿（港七福神）

境内にある満福稲荷神社は、従前、孫太郎稲荷と称えられましたが、近隣の稲荷社を合祀して、満福稲荷神社となりました。商売繁盛・事業繁栄・技芸上達の神様として、商業・飲食業・女性の方からの信仰篤く、霊験効（あらた）かな「お稲荷さま」として親しまれ多くの方にご参拝頂いております。

この満福稲荷神社に、七福神の一はしら福祿寿をお祀りしております。

福祿寿は南極星に擬せられ、道標（みちしるべ）の神様として、人の生きる道・事業・学業の道を教える神様として仰がれています。又、福祿寿は泰山府君（たいざんぷくん・泰山の神）と一体で、人の一生の福（しあわせ）・祿（おかね）・寿（いのち）を司る神様です。幸福・商売繁盛・事業繁栄・技芸上達・子孫繁栄・病氣平癒を祈願します。

福祿寿は老翁のお姿で杖と巻物を持ち、鶴に乗り、国境を越え、自由自在に世界を飛び回り、道を教える「鶴上の仙人（かくじょうのせんじん）」です。このお姿にあやかっって、海外旅行・留学の安全をお守り下さる神様としても信仰されています。

御祭日・御縁日

一月一日 元朝一番詣・歳旦祭	九月第四日曜日 大祭
元旦から成人の日 港七福神めぐり	十一月 七五三詣
四月十五日 満福稲荷祭	十二月三十一日 年越の大祓式
六月三十日 夏越の大祓式	

天祖神社社務所

東京都港区六本木七―七―七

電話 ○三―三四〇八―五八九八